

鳥取大学発で地域に根ざした「社会貢献ベンチャー」を目指したい。

(鳥取県米子市)

株式会社ハイパーブレイン 代表取締役 **加藤 豊実**



プロフィール
1956年鳥取県生まれ。鳥取銀行を退職後は故郷の米子市に帰り、鳥取大学非常勤講師を務めるかたわら、2009年に株式会社ハイパーブレインの設立と同時に社長に就任。

Q 商品化されたアロマオイルは、認知症の予防・治療剤として注目を集めていますね。

加藤：仕事柄、介護士の方々に接する機会が多いのですが、その時感じるのは介護の現場では高齢化の進展で認知症のケアが切実な問題になっているということです。今や認知症はガンなどと並ぶ国民病と言われていますが、現在のところ治療方法は「アリセプト」という医薬品のみで、ケアで最も大切な予防と早期発見の手立てが確立されていません。

当社の「リ・ブレイン」は、認知症研究の第一人者である鳥取大学医学部の浦上克哉教授の研究成果をもとに、独自で開発したアロマセラピー（芳香療法）用の精油です。成分は、無農薬・無化学肥料にこだわった欧州産のハーブを調合したもので、この香りが嗅覚によって記憶をつかさどる海馬を刺激し、認知症群の中で、最も多いアルツハイマー病の予防・治療を促します。また、不眠症にはよく睡眠導入剤が処方されますが、患者さんの中には効果が中途半端なため、就寝中に目が覚めて用を足す際に転倒・骨折することが多いようです。「リ・ブレイン」は副作用も少なく、心地よい眠りを促すため夜間の不眠症対策にも効果があります。

おかげさまで、2010年に発売した直後から地元マスコミなどに大きく取り上げられ、米子市内の介護施設をはじめ、全国の介護医療施設などでもアロマセラピーが取り入れられています。

Q 社長に就任された経緯をお聞かせください。

加藤：私が医療ビジネスと係わりをもったのは、今から5・6年前、単身で鳥取銀行の東京事務所に勤めていたことで、全国的に病院の倒産が相次ぐような状況でした。頭取から地元医療経営について調査するようにと

の指示があり、折をみれば県内の病院を回っていました。鳥取大学医学部から一般教養課程の学生向けに経済学の講義をしてはとの打診があったのはその頃のことです。安定収入が望めない非常勤講師への転職に正直悩みましたが、かねてから50歳を区切りで故郷へ何か恩返ししたいとの思いもあって引き受けることにしました。産学連携の橋渡し役である大学コーディネーターとしても活動しているうちに、浦上先生から、アロマセラピーを商品化するためのベンチャーを立ち上げたいので、社長になってはどうかとのお勧めがあったのです。

Q リスクが高いと言われる開発型ベンチャーの社長をよく引き受けられました。

加藤：浦上先生の情熱にほだされたということでしょうか。先生のご実家である岡山の浦上家には商売をしてはならないという家訓があるそうで、「開発は大学が受け持つから、暇を持て余している加藤さんは製造販売をやってみてはどうか。給料は出世払い」という先生の申し出をあっさりとお受けしました。不安がないわけではなかったのですが、ここの医学部はもともと研究成果の実用化に熱心な気風があり、先生ご自身も認知症診断用のタッチパネルを商品化し、倉吉や大阪の自動車教習所が高齢者講習向けに導入していました。こうした実績に加え、販売を目指していたアロマオイルは、大学での臨床研究で認知症の予防・治療剤としての効

果が実証されていたため大きな可能性を感じました。

とはいえ、会社立ち上げまでには大学職員の兼業規制や研究費の確保などいろいろと苦労がありました。10年前に政府の肝いりでスタートした大学発ベンチャーでしたが潰れるケースが多く、文部科学省の認可もなかなかおりなかったのですが、大学や県の後押しによって2009年7月に会社をスタートできました。その2年後にはわずかですが利益を出すことができ、その一部を大学の研究基金に寄付しました。

Q 今後、地域の一人員としてどのような企業を目指されますか。

加藤：現在は、私を含めて正社員は3名、年商は5千万円で収支はトントンです。アロマオイルの販売は主にインターネットを通じて行っていますが、昨年8月には地域の活性化にもお役に立ちたいと考え、米子市の四日市商店街にアンテナショップをオープンしました。設立総会場で宣言したのですが、わが社は「社会貢献ベンチャー」を目指したいと思っています。企業を継続するには儲けなくてはなりませんが、それだけでなく商品を通じて地域に貢献するためにこの事業を続けたいと考えています。昨今の美容石鹸のアレルギー問題のように当社の事業はリスクが高いことも事実です。そのために、現在、安全・安心な高い品質の保持と製造ノウハウの蓄積のため、鳥取県内に独自の製造工場を設置することを計画しています。

今後の米子ではITや精密加工などのハイテク産業よりも、恵まれた自然環境や食品加工など地域資源を活かして健康関連産業を育てることが重要でないかと思います。今、鳥取大学医学部には米子市内に患者さんのケアだけでなく、治療にあたる人材育成の拠点として認知症予防センターの構想があります。地域の皆さんには機運盛り上げに向けご協力をよろしくお願いたします。

インタビュー・構成：
エネルギー総合研究所